

新しい帯状疱疹ワクチンを導入しました

2021年4月8日

帯状疱疹ワクチンは50歳以上の方であれば、どなたでも任意接種可能な予防接種です。

現在、日本では2種類のワクチンが認可されています。

当院では、従来から生ワクチンの『水痘（すいとう）ワクチン』を承っています。

また2021年4月から、新たに不活化ワクチンの『シングリックス』を導入しました。

	水痘ワクチン	シングリックス
接種対象者	50歳以上	50歳以上
予防できる病気	帯状疱疹、水痘(水ぼうそう)	帯状疱疹
ワクチンの種類	生ワクチン	不活化ワクチン
接種経路	皮下注射	筋肉注射
接種回数	1回	2回（2か月後に2回目） 2か月を超えた場合、6か月後までに2回目を接種する
次のワクチンを接種できる間隔	* 生ワクチンは27日以上あける * 不活化ワクチンは制限なし	接種間隔に制限はなし
副反応	* 接種部位の痛み、腫れ、発赤 3日～1週間で消失 * 接種後1～3週間後の発熱 * 3～5%に水痘様発疹	* 接種部位の痛み、腫れ、発赤、 筋肉痛、全身倦怠感 3日～1週間で消失
料金	4,700円(税込)/1回	20,000円(税込)/1回
禁忌	* このワクチンにアレルギー症状を 起こしたことがある人 * 妊娠中の人 * 免疫機能が低下している人	* このワクチンにアレルギー症状を 起こしたことがある人
備考	* 1回接種でよい * 費用が安い * 予防効果50～60% * 持続期間5年程度 * 1987年～小児の水痘予防として、 2016年～帯状疱疹予防として販売	* 予防効果が高い(90%以上) * 持続期間が長い 現時点では9年は確認されている * 2020年1月～販売

帯状疱疹は、多くの方が幼少期に感染する水痘（みずぼうそう）ウイルスが原因で起こります。日本人成人の 90%以上は、水痘ウイルスが体内に潜伏していて、帯状疱疹を発症する可能性があります。水痘にかかると、このウイルスに対する免疫が活性化して病気としては治ります。しかし、ウイルスは体内に残り、どこか一つの神経節に静かに潜み、免疫が低下してくると増殖し、潜んでいた神経領域に水泡が出現する「帯状疱疹」を発症します。

一度獲得した免疫は時間（加齢）とともに徐々に低下することで発症原因になりますが、過労やストレス、糖尿病やがん等の病気がきっかけとなることもあります。

免疫は徐々に低下しますが、水痘にかかっている子供等と接触する機会があると、気がつかないうちに免疫が活性化されて免疫保持につながります。しかし、2014 年から乳幼児の定期予防接種に水痘が追加されたことで、水痘を発症する子供の数が激減しました。そのため、日常の中で子供との接触により免疫が活性化する機会自体が減ったため、高齢者の方が帯状疱疹を発症するリスクが更に上昇しています。

帯状疱疹は、皮膚の水疱が消えてからも長期間にわたり激しい痛みが持続して、日常生活に大きな影響を与えることもあります。

帯状疱疹は 50 歳頃から発症率が高くなり、80 歳までに約 3 人に 1 人が発症するといわれています。アメリカやドイツでは現在「帯状疱疹ワクチン」は定期接種になっています。日本では定期接種化に向けての動きもありますが、まだ何年先になるかわからないのが実情です。

帯状疱疹は約 6.4%に再発が認められるため、帯状疱疹にかかったことがある方の再発予防としても有効です。帯状疱疹にかかったことがある方も、ない方も、50 歳以上の方は一度、ご検討されてみてはいかがでしょうか。